

本学と柏崎市、新潟産業大学の三者間で連携協定を締結

5月18日(月)に本学において、柏崎市、新潟産業大学、本学の三者による連携協定の調印式が行われました。

この協定は、三者がそれぞれ培ってきた相互の連携と協力を一層強化し、魅力ある地域社会の発展と次代を担う人材の育成、大学の魅力づくりに寄与することを目的としています。

なお、連携協定における連携内容は、右記のとおりです。

また、6月13日(土)には柏崎エネルギーホールにおいて、連携協定締結を記念し、2大学合同企画として「保護者のための大学進学講演会」を開催しました。

関連URL

http://www.niit.ac.jp/news/2009/05/post_113.html

http://www.niit.ac.jp/news/2009/06/post_128.html



＜連携協定における連携内容＞

連携協定における今後のまちづくりの目標

- 1 ものづくりと技術が集積したまち
- 2 教育・文化・スポーツが盛んなまち
- 3 低炭素社会をめざすエネルギーと環境のまち
- 4 災害に強い安心して暮らせるまち

連携協定における連携事項

- 1 地域産業の振興に関すること
 - (1) 産学官連携、共同研究
 - (2) 産業人材の育成
 - (3) 新産業・新事業の創出
- 2 人づくり教育、文化及びスポーツの振興に関すること
 - (1) 市民の生涯学習活動や社会人教育の推進
 - (2) 文化・芸術資源などによる地域づくりの推進
- 3 低炭素社会に向けた地域づくりに関すること
 - (1) 新エネルギー、環境に配慮した地域づくり
 - (2) 柏崎夢の森公園・環境学校との連携
- 4 防災・震災復興のまちづくりに関すること
 - (1) 地域防災計画に基づく協力
 - (2) 震災復興に関する連携・協力
- 5 地域の国際化の推進に関すること
 - (1) 青少年の国際理解教育の推進
 - (2) 地域と留学生の交流推進
- 6 大学間連携及び高校と大学との連携に関すること
 - (1) 二大学間の連携
 - (2) 市内高校と二大学との連携強化



学友会が発足!!

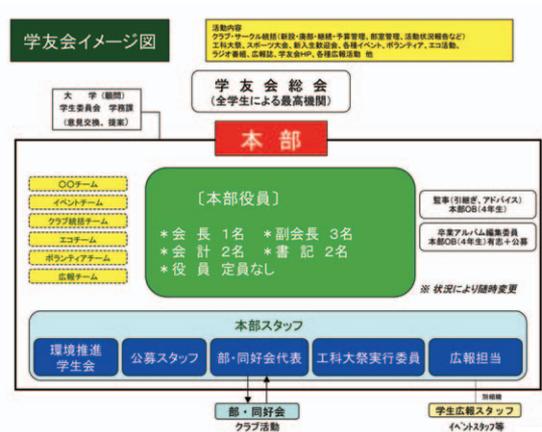
学生のさまざまな活動を統括し、学生生活をさらに活発化することを目的として、「新潟工科大学学友会」が設立されました。昨年秋から工科大祭実行委員、学生広報スタッフの有志や部・同好会の代表を中心に話し合いを重ね、構成員や活動内容を検討してきました。



初代会長には、建築学科3年の五十嵐和貴さんが選出され、今年4月の「市民による新潟産業大学・新潟工科大学新入生歓迎会」の企画、運営が最初の活動となりました。

今後は五十嵐会長のもと、各組織から集まった本部役員を中心に幅広い活動を行っていく予定です。

【関連URL http://www.niit.ac.jp/news/2009/04/post_104.html】



第14回工科大祭

6月6日(土)に第14回工科大祭が行われ、学内で同時開催された「青少年のための科学の祭典2009柏崎刈羽大会」、「第1回オープンキャンパス」と合わせて2,500人の人出で賑わいました。

すっきりした青空とはいきませんでした。朝早くから大勢の方が訪れ、シンボルタワー前の本部テントでは、実行委員が笑顔で来場者を迎えていました。

また、この春に学友会が発足したことにより、新潟産業大学学友会も初めてブースを出展し、両学友会の交流が一層深まりました。

大学紹介として、4学科がそれぞれPRコーナーを設置。機械制御システム工学科はロボット研究部と大金研究室がレスキューロボットや水上用ロボットなどを展示、実演。建築学科は製図室において、1年生が製作した椅子と光の箱、2年生によるカフェと2世帯住宅の設計製図を公開しました。また、環境科学科/物質生物システム工学科は「ようこそ 分子の世界へ!」と題した分子模型を展示したほか、科学の祭典には「いろいろイクラボトル」「分子模型を作ろう!」の2ブースに参加。情報電子工学科も科学の祭典に「手づくりゲームをたい



けん!」のブースを出展しました。どの学科、コーナーでも、学生が実験解説や作品紹介などを行い、子どもたちや来場者と接していました。また、各クラブ、サークルなども模擬店の出店や各種イベントを行い、さまざまな形で工科大祭を盛り上げてくれました。

恒例の芸能人招待では、お笑いライブが2年ぶりに復活、ザ・パンチさん、くまだまさしさん、大西ライオンさんの3組が出演し、会場の講堂はおよそ500人の来場者で埋めつくされ、笑いの渦に包まれました。

工科大祭実行委員長の村井沙耶さん(物質生物システム工学科3年・新潟県立燕高校出身)は終了後、「実行委員が昨年より少なく苦勞の連続でしたが、2大学の学友会が協力して成功させることができ、ほっとしています」と安堵の表情を浮かべていました。

【関連URL http://www.niit.ac.jp/news/2009/06/post_122.html】



第1回オープンキャンパス

6月6日(土)に開催された本年度第1回目のオープンキャンパスにご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

大学紹介、入試概要説明やキャンパス見学ツアー、模擬実験などを通して本学を存分に知っていただけたら幸



いです。

本年度はあと2回(7月25日(土)、9月13日(日))のオープンキャンパスを予定しています。

今回参加していただいた方、また参加いただけなかった方にも、より本学の魅力をお伝えできるようスタッフ一同、皆様のご来場をお待ちしております。

【参加いただいた皆様の声】

- ・ 模擬実験体験が面白かった。
- ・ 在学生の対応が親切だった。
- ・ たくさんの機械があってすごかった。
- ・ 見学の時間が短かった。 など

【関連URL http://www.niit.ac.jp/news/2009/06/post_126.html】

青少年のための科学の祭典2009柏崎刈羽大会

6月6日(土)に本学で「青少年のための科学の祭典2009柏崎刈羽大会」(主催:柏崎市教育委員会、柏崎市立教育センター、新潟工科大学ほか)が開催されました。

“科学のえんま市”のキャッチコピーにふさわしく、学内には多くのブースが出展され、本学からも環境科学科の竹園恵教授、小野寺正幸准教授、情報電子工学科の佐藤栄一准教授が出展しました。また本学の学生も、子供たちの指導にあたりました。



[関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2009/06/2009.html>]



ロボット研究部近況報告

ロボット研究部 部長 廣神 成暁
(機械制御システム工学科4年 群馬県立高崎工業高校出身)

地震などで倒壊した家屋内での被災者の捜索は、二次災害などの恐れがあり人間では危険が伴います。私たちロボット研究部は、二次災害を考慮し安全に被災者を捜索することが可能なレスキューロボットを開発しています。中越地震、中越沖地震を体験し、このロボットの実用性を実感しました。これらの経験を生かし、日々実用に近づけるよう研究、開発を続けています。

実際の被災地で得た知識として、小さい穴からでも進入し捜索できるようにしなければ実用できないと判断しました。そのため小型化を今回のコンセプトとしました。そして従来本体ユニットに搭載していた機器をクローラユニットに搭載することにより小型化し、また受動、能動変形を両方可能にして、操縦性を向上させたレスキューロボット「BLUE-R2」を製作しました。

5月には、ロボット研究部の活動の一つ、ロボカップジャパンオープン2009大阪(日本大会)のレスキューロボットリーグに参加しました。このリーグの内容は、地震で倒壊した家屋などの仮設の災害現場を模したフィールドで、レスキューロボットが災害救助活動のスピードと精度を競い合う競技です。

大会は私達の準備不足によりやむなくリタイアしてしまいました。機体の設計に対しての考え方、完成までのスケジュールの構成を安易に考えていたことが大きな原因と考えられます。最悪な結果に終わってしまった今回の大会、責任の取り方の一つとして大会後2週間で機体が完成しなければ、6月末から行われる世界大会の出場を辞退するという話を顧問の先生と約束しました。今回の大会で、完成までの予測をしっかりと立て機体を製作すること、小型化する際に中に搭載する機器や配線に合った設計をすること、これらの重要性を学びました。そこで、機体の中心軸を最小限大きくし機器を中心軸に集めることにより配線の混雑を改

良し、期限内に無事に完成させることが出来ました。工科大祭では実際に機体を動かして説明し、無事盛況に終わることが出来ました。

今後の活動として、オーストリアで行われるRoboCup2009Graz(世界大会)のレスキューロボットリーグに出場します。世界大会に向けて今回の失敗で学んだこと、動作確認の際に挙げた改善点等をふまえ、開発を進めています。世界大会では日本大会で満足に行えなかった機体の性能評価、そして世界の機体を見ることで今後の発展に生かします。私は部活の部長としても大学生としても最後の大会です。すべての集大成として1から開発したレスキューロボットで大会でも機体性能でも良い成果の残せるよう頑張っています。



教員表彰

情報ストレージ研究推進機構 (SRC,Japan) 論文賞を受賞

情報電子工学科の金井靖教授の論文2件が2008情報ストレージ研究推進機構 (SRC,Japan) 論文賞を受賞しました。なお、1件の論文の共著者は、本学大学院博士前期 (修士) 課程修了生の平澤和則さんと博士後期課程在学中の塚本敏男さんです。

受賞論文の題目と著者は、以下のとおりです。

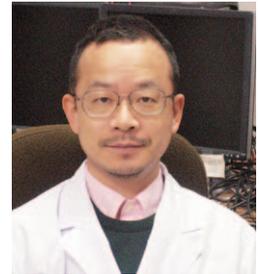
題目 Micromagnetic Recording Field Analysis of a Single-Pole-Type Head for 1-2 Tbit/in²

著者 Yasushi KANAI, Kazunori HIRASAWA, Toshio TSUKAMOTO, Kazuetsu YOSHIDA, Simon GREAVES, and Hiroaki MURAOKA

題目 Shingled recording for 2-3 Tbit/in²

著者 Simon GREAVES, Yasushi KANAI, and Hiroaki MURAOKA

〔関連URL http://www.niit.ac.jp/news/2009/06/src_japan_storage_research_con.html〕

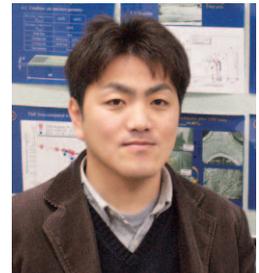


日本材料学会学術奨励賞を受賞

機械制御システム工学科の山崎泰広准教授が平成20年度日本材料学会学術奨励賞を受賞しました。

受賞課題は「プラズマ溶射遮熱コーティングの熱疲労損傷機構の解明と寿命延伸」です。

〔関連URL http://www.niit.ac.jp/news/2009/06/post_123.html〕



国際会議AP Biomech 2009のBest oral presentation awardを受賞

機械制御システム工学科の寺島正二郎准教授が、国際会議4th Asian Pacific Conference on Biomechanics (第4回アジア環太平洋バイオメカニクス学術講演会) のBest oral presentation award (最優秀講演賞) を受賞しました。

なお、共著者は本学大学院修了生の北澤拓也さんと情報電子工学科の佐藤栄一准教授です。

講演タイトルと著者は、以下のとおりです。

タイトル 「Development of Mouthpiece Type Remote Controller for Disability Persons - 3rd-」

著者 Shojiro George TERASHIMA, Takuya Kitazawa, Eiichi SATHO

〔関連URL http://www.niit.ac.jp/news/2009/06/ap_biomech_2009best_oral_prese.html〕



公開講座のご案内

新潟工科大学では、大学の持つ教育研究の情報を地域の皆様に還元するとともに、学習機会を提供する場として、公開講座を開講します。多くの皆様方の受講をお待ちしております。

教養講座：「中学生 サッカースキルアップ講座」

講師：教養系 小泉 昌幸 准教授

- 対象：地域の中中学生
- 定員：30名 (応募者多数の場合は抽選となります。)
- 申込期間：平成21年7月1日(水)～7月22日(水)
- 持ち物：サッカーボール1個
- 服装：動きやすい服装で参加してください。また、雨天の場合は、中履きを用意してください。
- 問い合わせ先 入試広報課
TEL.0257-22-8188 FAX.0257-22-8226
URL <http://www.niit.ac.jp/>
E-mail nyuushi@adm.niit.ac.jp

回	開講日	テーマ	場所
1	7月29日(水) 13:30～15:30	(開講式 13:30～13:40) シンプルな仕掛け ～有利なポジション、正しいポジションから～	新潟工科大学 グラウンド (雨天の場合は体育館)
2	7月30日(木) 13:30～15:30	正しいポジションから攻撃&守備 ～良いスタートポジション、動きながら良いポジション～	
3	7月31日(金) 9:30～11:30	決める ～ゴールが目的～	
4	8月5日(水) 13:30～15:30	決定機をつくる ～数的有利を利用する、つくりだす～	
5	8月6日(木) 9:30～11:30	ビルドアップから決定機 ～門(ゲート)～ (開講式 11:20～11:30)	



発行

新潟工科大学広報誌 第18号
平成21年6月30日
新潟工科大学入試広報委員会

新潟工科大学

〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719番地
TEL.0257-22-8111 (代表)
FAX.0257-22-8112
E-mail:soumu@adm.niit.ac.jp
URL:<http://www.niit.ac.jp/>